

平成 31 年 3 月 27 日

自動車分野におけるテロ対策検討会

先進的警備システム実証実験検証結果の総評

1. 実証実験の背景

欧米諸国等において発生している最近のテロでは、公共交通機関、大規模集客施設等のいわゆるソフトターゲットが標的となる傾向にあることを踏まえ、関係省庁は、ソフトターゲットに対するテロについて、施設管理者との連携や訓練の実施、必要な警戒警備体制の構築、効果的な装備資機材の導入等により警戒強化を推進しています。

このような背景の中、国土交通省は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、バスターミナル等不特定多数が集まるソフトターゲットに対する警戒強化のため、先進的警備システムによる実証実験を行いました。

2. 実証実験の目的

不審人物や不審物を自動で検知できる先進的警備システムについて、導入効果を検証及び評価することにより、バスターミナル等への先進的警備システムの導入促進を図ることを目的に実施しました。

3. 実証実験の概要

実証実験は、平成30年12月17日から12月20日の間で、新宿南口交通ターミナル（バスタ新宿）の一部区域において、7事業者の協力により実施しました。

実証実験は、不審人物・不審物の検知が可能なシステム等を設置し、参加事業者による模擬行動を実施することにより、バスターミナル等で有効に機能すると思料された①不審人物の顔認証による検知機能、②不審物の置き去り検知機能、③不審行動の検知機能及び④不審人物・不審行動者の自動追尾機能を主軸に実施し、実験後に各事業者により検証結果を報告して頂きました。

4. 参加事業者（五十音順）

株式会社アシストユウ、株式会社クリューシステムズ、セコム株式会社、
セントラル警備保障株式会社、総合警備保障株式会社、
パナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社、株式会社富士通マーケティング

5. 実証実験検証結果の総評

バスターミナル等の警戒強化に当たっては、利用者の流動性や利便性の低下を最小限に抑えつつ、不審人物・不審物を自動で検知することにより、テロの未然防止に効果があるシステムが求められています。

今回の実証実験により、参加した各事業者の先進的警備システムについて、不審人物・不審

者を自動で検知する機能を有していること等が確認できました。

また、参加した事業者においては、実際のバスターミナル等で実験的に先進的警備システムを稼働させたことにより、バスターミナルの特性を把握することができたことから、今後の更なる性能向上に寄与するものと考えます。

本実証実験で得られた検証結果については、同システムの導入促進のため、今後有効に活用されることを期待しています。